

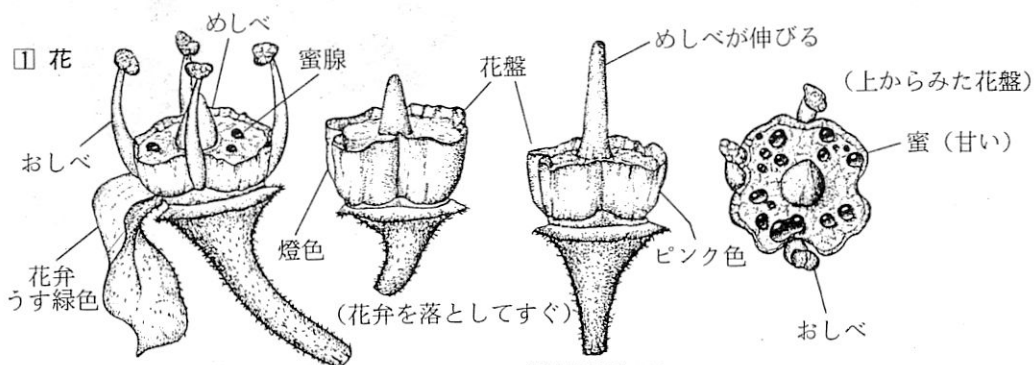
協議会ニュース

27号

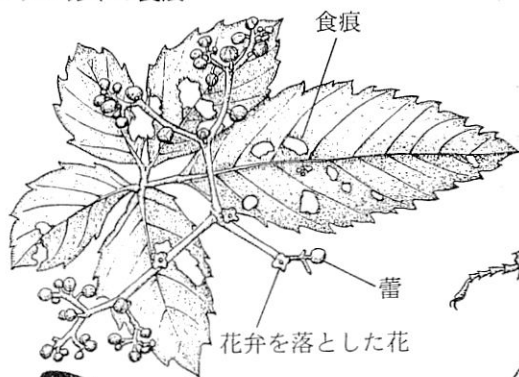
愛知県自然観察指導員連絡協議会

平成元年
10月

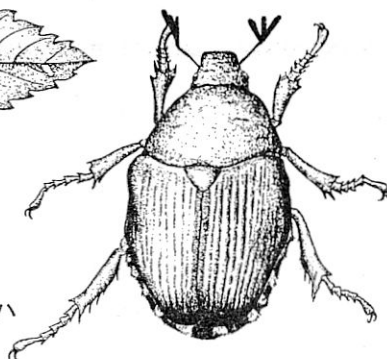
蜜の集めやすい花 ヤブガラシ



② マメコガネの食痕



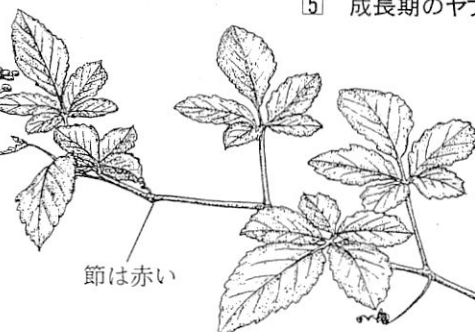
③ マメコガネ



④ 吸蜜するアオスジアゲハ



⑤ 成長期のヤブガラシ



季節の話題

貂(てん)

秋から冬にかけては動物達の行動を知るのに最もよい季節です。

姿を見ることはできなくても、秋に豊産する果実類を食べた跡や糞、雪上についた足跡などが観察できます。

テンはイタチ科の動物で、特に冬毛は素晴らしく美しい黄色(少し燈色を帯びる)をしており、自動車の前をサッと横切った時には思わずドキッとしてしまいます。テンはイタチと同じくネズミを主食としていますが、ネズミを捕える能力はイタチの方が勝っているようです。昔の人はこういった状況を知っていたらしく、「源平盛衰記」に登場する「鼬なき間の貂誇り」という言葉はこのことから「競争相手のいない時に威張る」という意味に使われているそうです。

テンの存在を一番よく教えてくれるのが、秋に見られる「果実フン」です。右図は昨秋に稲武町の面ノ木峠ブナ林で見つけた果実フンです

が、フンはすべてサルナシ(マタタビ科)の果皮と実からできていました。このフンは国有林の境界コンクリート柱の上にしてあり、サインポストの役割をしているようにも思えます。

協議会では今、哺乳類分布調査を行っています。皆さんも哺乳類の姿を見たり、痕跡を見たりしたら是非御連絡ください。



テンの足跡(上)

テンの果実糞

(右)

(北岡明彦)

協議会ニュース27号目次

・蜜を集めやすい花	(辻 伸夫)	表紙
・季節の話題 貂(てん)	(北岡明彦)	1
・表紙のことは	(辻 伸夫)	1
・会員紹介	(武田孝夫)	2
・特集 全県一斉観察会のアンケート調査結果について	(編集委員会)	3
・マイ・ウォッチング		
セミの抜殻調査	(佐藤国彦)	7
・会員広場	(妹尾幸雄・山内美穂子・宮本敬之助)	9
・おたよりコーナー	(山田博一)	10
・支部だより		11
・協議会行事報告		13
・WANTED セイタカシギ		14
・行事案内		15
・会員異動		15
・お知らせ		15

“蜜を集めやすい花”

人々に関心の少ないヤブガラシ(ブドウ科)も、虫たちにとっては絶好の蜜集めの花のようです。

うす緑色の花卉を持つ小花は、全体が蜜腺となっており、たっぷり蜜をためています。この小花が花序をつくっているのですから、チョウやハチなどが好んで訪花します。そしてメコガネは葉を食べるだけでなく蜜を満たした花も食べています。

この花をめぐり多くの虫たちが出会い、利用し、争い、終日訪花性昆虫のいろいろな行動の不思議を私たちに見せてくれます。

身近なところにも、おもしろい観察対象はいくらでもあるようです。

(西三河支部 辻 伸夫)

私 と 自 然



自然と遊び、育てられた
子供の時代

私は大正15年、豊川^{とよがわ}の
当古橋のそばで、水呑百姓
の二男として生まれました。
当時の農村は、富国強兵の
基地としての役割は大きい

ものでした。富国とは養蚕から生糸を輸出して外貨を稼ぎ軍備増強を図ることでした。また強兵とは、農村青年の心身鍛練で強い兵隊へと言うことでした。こうした環境の中で育った私は、勉強なぞぜんでもよい、百姓仕事を手伝えの父の厳命に背き、百姓仕事から逃げて、ガキ大将となって野山で兵隊ごっこや、川で魚を捕ることに夢中になって自然に育てられたようなものでした。

小学3年生の頃、山仕事の手伝いに行き、カラスのヒナを持ち帰り飼育して、私の分身位になって遊びました。或る日、学校につれて行き、得意になって皆に見せたところ、教室の窓ガラスをコツコツとつついて授業にならず、先生は授業を止めて鳥の話をして下さった思い出はなつかしいものです。そのカラスも、日夜行われた軍隊の豊川^{とよがわ}での演習で機関銃の音に驚き生れ故郷に帰ってしまいました。

このように世相は軍国一色へと進んでいき、私の将来も、叔父が職業軍人であった関係から、父と相談して、中学校から軍人学校へとレールが敷かれたようでしたが、そんなこと知る由もなく、相変らずの腕白小僧で、或る日、眉間を7針も縫う大ケガをして、仰げば尊しの歌も唄えず、中学入試も受けられず病室で、痛い痛い^{みけん}と泣いていたのが小学校の終りでありました。

やすらぎを求めて自然の中へ

農学校から農業試験場に進み、曲りなりにも農業技術者として、米の増産と借出に農家を訪問。戦時食糧増産要員として、入隊延期のお墨付きをもらっていたものの、戦局利あらず動員下令、そ

武田孝夫（東三河支部長）

して敗戦、復員というコース。必勝の信念に燃え張切っていただけに敗戦は、心の痛手も大きく、虚脱状況の中で山登りに興味を覚えました。そこには豊かな自然のモノ^{モノ}が一杯ありました。キノコが、山菜が、葉草が、魚が、それらを採っては植え、食べたりして自然と共存した生活そのものでした。今思えば自然荒しの大罪を犯していたわけです。そもそも、自然の接し方の出発点が誤っていたことが残念でなりません。

指導員受講

55年度の受講、講習会に参加して見て、私の受講の動機の甘さと、過去の自然の接し方に冷汗三斗の思いに赤面してしまいました。諸先生の話に感動すると同時に、心新たなき持を持って指導員の腕章をつけて見たものの、その心は優柔不断でありました。幸いにも良き先輩、友人を得て支部の一員として楽しく勤めさせていただいることに感謝いたしています。よる年並みに勝てず足腰の老化現象と斗いながら微力ではありますが頑張りたい所存です。よろしく願います。

私の抱負

いま、組織の中では、年々会員数が増えています。嬉ばしいことですが、現実には、連絡文書を発送しても応答のない方、一度も観察会に参加されない方もいます。量だけでなく、実動の運営を考える時期と思われます。指導員の方も初心に帰って新たな行動を起してほしいと思います。

観察会も豊かな自然の場所が多くないでしょうが、自然が破壊された場所で、自然保護を訴える機会を持ちたいと思います。私が育った50年前を思うと、四季のリズムがはっきりしていました。雪も降れば積り、豊かな自然が一杯でしたが今はどうでしょう。その変化が気懸りです。これから先の50年…。SF小説ならずとも身のすくむ思いがします。我が家の畑に立ちて、モグラの走り回った跡を見て、これがいいんだと一人悦にいつている今日この頃であります。

特 集

全県一斉観察会のアンケート調査結果について

(編集委員会)

平成元年6月4日の日曜日、環境週間にちなんで、全県一斉自然観察会を行いました。テーマは「水について考える」というもので、その時アンケート調査を実施しました。今回は、その結果をとりまとめたので報告します。

なお、自然観察会の実施場所は次のとおりです。

- 協議会 稲武町面ノ木峠ブナ林
- 名古屋支部 守山区小幡緑地
- 尾張支部 犬山市善師野
- 知多支部 半田市任坊山
- 西三河支部 愛知こどもの国
- 東三河支部 豊橋公園
- 奥三河支部 鳳来町湯谷

1 参加者の状況

アンケートの回収枚数は122枚で、その年齢別、性別の状況は表-1のとおりです。

〔表-1 年齢別・性別状況〕 ()は構成比%

年令	男 性	女 性	不明	計
0～9	2(6)	1(1)		3(2)
10～19	5(14)	2(3)	1	8(7)
20～29	4(11)	7(9)		11(9)
30～39	10(29)	39(51)	5	54(44)
40～49	7(20)	19(25)	2	28(23)
50～59	4(11)	6(8)	1	11(9)
60～	3(9)	3(4)		6(5)
不明			1	1(1)
合計	35(100)	77(100)	10	122(100)

これから次の様なことが分かります。

＊ 回答者の大半が女性であること。(男性の2倍以上です。)

＊ 回答者は、ほぼ全年令にわたっています。

＊ 回答者の6割余が30～49才の年齢層となっていること。

(犬山市の小学生は、後に記すように別のアンケートを行っていますので、実際の参加者は子供が半数を占めています。)

＊ 女性では30～49才が76%を占めるのに対して男性は年齢階層に比較的バラツキがあること。

2 過去の観察会への参加状況

次の表-2では、年齢別に今まで観察会へどの位参加したかをみてみました。

〔表-2 年齢別の観察会への参加回数〕

年令	初めて	1回	2～3回	何回か	計
0～9	2	1			3
10～19	5	1	1	1	8
20～29	7	1	1	2	11
30～39	4 5	7	1	1	5 4
40～49	1 7	4	5	2	2 8
50～59	5		1	5	1 1
60～	1		2	2	5
合計	8 2	1 4	1 1	1 3	1 2 0

(この他、不明が2名あり)

これをみると次のようなことがわかります。

＊ 「初めて」という人が最も多く(68%)、「1回だけ」「2～3回」「何回か」は数はぐっと減りますがほぼ同数でした。

＊ 40才以前では、「初めて」の人が特に多いが、「2～3回」「何回か」になると40歳以上の階層が多くなること。特に、60才までは、年齢が高くなるほど参加回数も多くなるようです。

ということは、参加者の中に年配者がいれば、観察会参加経験者の割合が多くなるということです。

次の表-3は、性別の参加経験です。

＊ 「初めて」の男女割合では、女性が圧倒的に多く、「2～3回」「何回か」になるにつれて、

〔表-3 性別の観察会への参加回数〕

性別	初めて	1回	2～3回	何回か	計
男性	1 8	4	5	8	3 5
女性	5 8	8	5	5	7 6
不明	6	2	1		9
計	8 2	1 4	1 1	1 3	1 2 0

男性の割合が多くなっています。

- * 女性は、最初の参加数が多いが、2回、3回と参加するのは男性の方が多くなるようです。言い替えば、男性は、参加者数としては女性より少ないが、観察会の参加経験のある者が多いといえましょう。

3 観察会を何で知ったか

アンケートの設問第1の「この観察会があることを何で知りましたか」の結果は、表-4のとおりです。

〔表-4 観察会を知った原因〕

新聞	チラシ	他の人	広報	その他	計
3	8	57	9	43	120

これによると

- * 「他の人から」というのが最も多く、これはくちコミによって参加した人が多いことを示しています。
- * 「新聞」で知って参加した人は、120名中3名しかおらず、あまり効果がなさそうです。また、「チラシ」もその配布時期や場所がかなり影響しそうです。
- * 「その他」がかなり多いのは、子供会を通じて知ったケースがある他は内容不明でした。
- * この結果から今後の広報のやり方を反省する必要があります。

4 今までに「水の問題」について考えたことがあるか

今回の自然観察会のテーマである「水について考えよう」に関連した設問の結果は、表-5のとおりです。

〔表-5 水問題への関心度〕 ()内は%

年令	よくある	あまりない	ない	計
0～9		2(67)	1(33)	3(100)
10～19	1(13)	6(75)	1(12)	8(100)
20～29	5(45)	6(55)		11(100)
30～39	15(28)	37(68)	2(4)	54(100)
40～49	13(52)	11(44)	1(4)	25(100)
50～59	6(55)	4(36)	1(9)	11(100)
60～	3(50)	2(33)	1(17)	6(100)
不明		1		1
合計	43(36)	69(58)	7(6)	119(100)

この表-5をみると

- * 水の問題について考えたことが「よくある」と回答のあったのは全体の36%でした。残りの64%の人は、水の問題について、あまり考えないか、考えたことがないということです。
- * また、年令が高くなるに従って「よくある」と回答する人の割合が増えるようです。これを性別にみたのが表-6です。

〔表-6 性別の水問題への関心度〕 ()内は%

年令	よくある	あまりない	ない	計
男性	14(40)	18(51)	3(9)	35(100)
女性	23(31)	47(64)	4(5)	74(100)
不明	6	4		10
計	43(36)	69(58)	7(6)	119(100)

これによると

- * 水の問題について考える割合は、「よくある」の比率は女性より男性の方が高かった。
- * 「ない」と回答した人は、男性も女性も1割以下でした。
- * 水の問題について考えたことが「ある」と答えた人の中で、その内容は次のとおりでした。
- ① 水質の汚濁に関すること 26名
- ② 水不足、水の使用に関すること 4名
- 5 「環境週間」という言葉を知っていたか。
- この設問の結果は、表-7のとおりです。
- この結果によると、

- * 全体的に、「知っていた」「聞いたことがある」を合せて約80%の人が「環境週間」という

〔表-7 環境週間の知名度〕 ()内は%

年令	知っていた	聞いたことがある	知らない	計
0～9		1(33)	2(67)	3(100)
10～19		5(63)	3(37)	8(100)
20～29	4(36)	5(46)	2(18)	11(100)
30～39	19(35)	27(50)	8(15)	54(100)
40～49	12(43)	11(39)	5(18)	28(100)
50～59	7(70)	2(20)	1(10)	10(100)
60～	4(66)	1(17)	1(17)	6(100)
不明		1		1
合計	46(38)	53(44)	22(18)	121(100)

言葉に触れているといえます。

＊ 年令的には、前の問と同様に年令が高くなるほど「知っていた」と答える人の割合が高くなるようです。

また、これを性別に見ると、表－８のようになります。

〔表－８ 性別の環境週間の知名度〕（ ）内は%

年令	知っていた	聞いたことがある	知らない	計
男性	14(40)	16(46)	5(14)	35(100)
女性	28(36)	32(42)	17(22)	77(100)
不明	4	5		9
計	46(38)	53(44)	22(18)	121(100)

＊ 男女別の状況では、「知っていた」という回答の割合はやや男性の方が多く、「知らない」という回答は女性のほうが多いようでした。

6 今日の観察会で一番おもしろかったこと (印象に残ったこと)は何か

回答の多かったものを順に並べると次のようになります。

- | | |
|----------------|----|
| ① 水生生物の観察をしたこと | 34 |
| ② 植物の名前を覚えられた | 29 |
| ③ ブナ林をみた | 9 |
| ④ 自然と触れ合ったこと | 8 |
| ⑤ 植物の観察 | 8 |
| ⑥ ヤドリギの話 | 6 |
| ⑦ 生態系について | 6 |

このように、今回は「水について考える」をテーマとして一斉観察会を実施しましたが、印象に残ったものの一番に「水生生物の観察」があげられており、それなりの成果があったように思います。

また、植物の名前を覚えられたことがよかったとの回答が多くありました。中には、自分が今まで見ていた植物がクズであることを今日知ったとか、草にはおもしろい名前があると書かれているものもありました。

その他、観察する子供の姿がよかったとか、子供と一緒に楽しめたという回答もあり、自然観察会が自然との交流だけでなく、家族や知らない人まで含めた人間交流の場としての役割を果たす必要もあると考えさせられました。



面ノ木峠での水生昆虫観察

7 今日「水の問題」で何に一番関心をもったか

次に観察会の中で、水の問題として何に最も関心をもったかを聞きました。回答の多かったものは次のようです。

- | | |
|---------------|----|
| ① 水質と水生生物の関係 | 27 |
| ② 水質の汚濁 | 13 |
| ③ 森林の水源としての機能 | 9 |
| ④ 水の大切さ | 6 |
| ⑤ 自然を大切にしたい | 2 |
| ⑥ 葉の蒸散作用 | 2 |

回答で一番多いのが「水質と水生生物の関係」であったことは、今回の観察会での指導者側の姿勢が反映された結果のように思いました。

今まで水の問題について考えたことが「よくある」と回答した人が35%しかなかったけれど、今回の観察会が環境に関心を持つきっかけになるとよいと思います。

8 その他、気の付いたこと

この問いについての回答は、次のようです。

- | | |
|----------------|----|
| ① 自然観察会に来てよかった | 19 |
| ② また参加したい | 10 |
| ③ 改めて自然を見られた | 4 |
| ④ 森林の生態が見られた | 2 |
| ⑤ 森がきれいだった | 2 |
| ⑥ 小学生にはむづかしい | 2 |
| ⑦ 自然観察会のPR不足 | 1 |
| ⑧ 問題をもっと深めたい | 1 |
| ⑨ 人間を考えられる | 1 |

回答に「自然観察会に来てよかった」「また参加したい」の多かったことは、多少お世辞があるとしても、主催者としては大変嬉しいことです。

9 参加者の住所

アンケート回答者の住所をまとめておきます。
各観察会の参加者数の違いにより、地域的にかなりばらつきがあります。

犬山市 56 岡崎市 18 豊橋市 15
名古屋市 8 豊川市 4 新城市 3
瀬戸市 2
可児市・豊田市・安城市・西尾市・蒲郡市各 1
不明 11

10 子供対象のアンケート

犬山市善師野では小学生の参加が多かったため、特に子供用のアンケートを実施しました。

次に、その概要をまとめてみます。（回答数は134で、項目別にはそれぞれ複数回答になっています。）

(1) 観察会でおもしろかったこと

項 目	数	項 目	数
水 生 生 物	42	川で遊んだこと	8
池で遊んだこと	4	おたまじゃくし	4
虫	14	か い こ	18
かなへび	3	植物の観察	13
木 の 実	6	森 の 観 察	3
化 石	3	岩 石	2
歩いたこと	2	い ろ い ろ	4
昼 食	7	そ の 他	7

* 水生生物や川での遊びが最も多くなっています。また、子供の場合は虫など動くものを好みますが、今回もそうした傾向が出ています。

* 植物の観察・森の観察なども13人と比較的多い結果が出ているのが特徴的です。

* なお、表だけでは分かりませんが、ありふれた対象であっても、指導の仕方によっては興味を引くことがうかがわれます。

(2) 時々遊びに行く場所

	公園	空き地	森林	河川	田畑	回答者
男子	49	27	13	36	19	65
女子	52	18	10	9	10	55
計	111	45	23	45	29	120

* 男女とも公園の利用が多く、特に女子ではほとんどが公園で遊んでいます。また、男子では空き地でのあそびが比較的多いようです。

* 男子で公園の次に多いのは河川ですが、これは主に釣りが目的と思われます。

* 森林で遊んだ経験者がやや多いように思われますが、これは犬山周辺には自然に恵まれた場所がまだ残っていることを示しているのでしょうか。

(3) 遊んだことのあるもの

	草花遊び	虫とり	魚つり	木登り	計
男子	40	59	47	46	65
女子	58	54	27	27	62
計	98	113	74	73	127

* 遊びの内容では、草花遊びと虫とりはあまり男女差がないようですが、魚つり・木登りではさすがに男の子が多くなっています。

* 木登りの経験者が思ったより多いようでした。また、遊びに男女差がなくなっているような気がします。

(4) あまり知らない生物（複数回答）

種 名	男子	女子	計
アブラゼミ	4	14	18
モンシロチョウ	1	4	5
アゲハチョウ	4	7	11
オニヤンマ	19	33	52
コクワガタ	10	23	33
コメツキムシ	36	52	88
キリギリス	8	14	22
カメムシ	25	46	71
タンポポ	1	2	3
レンゲ	13	3	16
スミレ	18	3	21
ナズナ	30	20	50
クスノキ	29	47	76
回 答 数	68	66	134

* 知らない生物としてはコメツキムシ・オニヤンマが多く、植物ではナズナ・クスノキです。

* モンシロチョウ・タンポポすら知らない子がいくらかいますが本当でしょうか。

* こうした結果から、子供たちがいつも接することのできる自然が大切であると感じます。

セミの抜殻調査

佐藤国彦（名古屋支部）

夏の暑い陽射しの中で鳴くアブラゼミ、夕方など涼しげに鳴くヒグラシ、夏休みの終わりが近いことを予告するようなツクツクボウシなど、セミは私達の生活に最も身近な昆虫である。

愛知県では、約13種のセミが生息しているといわれるが、名古屋市内などの都市部では、アブラゼミ・ニイニゼミ・クマゼミ・ツクツクボウシなど数種類しか見られないようである。

そうしたセミの種類や個体数にどのような変動があるか経年変化を調べることとし、名古屋市中区の護国神社で昭和59年から調査を行った。

途中の昭和60年と61年のデータを失ったため、ここではそれらを除いた4カ年の結果についてまとめてみる。

調査を始めたところ、抜殻が見られるのはアブラゼミばかり、他はニイニゼミの抜殻がわずかにあっただけで、結果的にはアブラゼミの経年変化のみを調べることになってしまった。

1 調査方法

調査は、次の様な方法で行った。

- ① 調査期間：毎年7月下旬から9月上旬まで、週1回の割で調べることとした。
- ② 調査区域：護国神社の境内のうち、周囲の土手と中央の桜並木の部分を除いた区域とした。

③ 調査方法：抜殻を採取して、その数を調べる。

ただし、地上に落ちているものと、手のとどかないおおむね2m以上の高さに付着しているものは数えていない。

2 調査結果

調査結果から考えられることは、おおむね次のようである。

① 抜殻の多い年と少い年の差は3割程度である。

② 羽化する時期は、7月末から8月中旬が主で、ピークは8月上旬である。なお、年により羽化時期に若干の違いがあると思われるが、調査間隔が大まかなのではっきりしない。

③ 雄と雌の割合は、年間ではほとんど同数かやや雄が多い。しかし、時期的には雄の発生が早く、雌は遅い。7月末頃は60%位が雄であり、8月10日頃に性比は逆転し、8月末頃には65%位が雌となる。

護国神社全体でどの位アブラゼミが発生するかを推定してみると、調査が週1回程度のため、その間に無くなるものがいくらかあり（掃除などにより）、また高く採取できないものがあること、調査から除外した部分があることなどから、全体として7割程度が採取できたと考えられる。従って、護国神社では、少い年で600匹位、多い年で850匹位が発生すると思われる。

セミの抜殻調査（護国神社） 対象：アブラゼミ

59年				62年				63年				元年			
	総数	♂	1日当		総数	♂	1日当		総数	♂	1日当		総数	♂	1日当
7/26	5	1		7/23	18	16		7/26	12	9		7/28	31	27	
8/ 2	98	54	14	7/29	136	77	23	8/ 3	75	56	9	8/ 4	82	51	12
8/ 8	133	80	22	8/ 6	186	84	23	8/11	121	68	15	8/11	142	78	20
8/16	79	33	10	8/13	133	60	19	8/22	107	53	10	8/18	92	43	13
8/23	93	42	13	8/20	70	27	10	8/31	76	38	8	8/25	64	24	9
8/29	33	15	6	8/27	39	12	6	9/ 7	23	6	3	9/ 4	15	5	2
9/ 6	20	7	3	9/ 3	17	4	2								
9/14	6	1	1												
計	467	236		計	599	280		計	414	230		計	426	228	

また、アブラゼミ以外のセミの抜殻は、ニイニイゼミが昭和59年に5匹、63年に1匹見付かっているだけである。ニイニイゼミは都市部では最近減少しつつあるように思われるが、ここでもそうした傾向があるのかもしれない。最近増加傾向にあるクマゼミの抜殻が全くないのは、どうしてか解らない。

幼虫期間の長いセミの個体数変動を調べるには、10年位の長期継続調査が必要であり、さらにもう1カ所位調査地が欲しい気もする。しかし、都市部という天敵が少ない場所では、種間競争を別とすれば、今後もセミの数は減らないような気がする。

3 樹種の好み

アブラゼミがどのような種類の樹木を好むかも調査をしていて気になっていたので、本年8月に調べてみた。

抜殻の付いている木が、幼虫の成育した木とは必ずしも考えられないので、幼虫が抜け出た穴の数を調査したが、多くの木が樹冠が重なっており（根も同様に重なっている）、単木的に生えている木だけを見たが、あまり正確ではない。

調査結果は、下の表のとおりで、穴の数が最も多かったのはマテバシイで、クロガネモチがこれに次いでいる。その他サカキ、サンゴジュなども好むようである。表では常緑樹ばかり記載されており、これは境内に落葉樹は少ないためであるが、傾向としては常緑樹を好むようである。（昭和60年の豊橋市での調査では、メタセコイヤ・サクラにかなり抜殻が付着していた。）

なお、「セミの生態と観察」（橋本治二著）によれば、アブラゼミの好む木として、サクラ・ケヤキ・ヒマラヤスギ・モミ・ナシがあげられており、モチノキ・カナメモチなどはやや特殊な環境でのみ認められるとしてあるので、護国神社など

幼虫の抜穴の数 （元. 8. 19調査）

サカキ(2本)	6	クロガネモチ	12	スダジイ	2
サカキ	4	クロガネモチ	3	サンゴジュ	8
サカキ	8	クロガネモチ	2	サンゴジュ	3
アオキ(低木)	3	マテバシイ	8	モチノキ	1
イチイガシ	3	マテバシイ	18	モチノキ	5

都市の社寺林などでは違った傾向が現れるのかもしれない。

なお、参考に前記の本からその他のセミの好む木をあげてみる。

ニイニイゼミ：サクラ、ケヤキ、マツ類、モミ
ヒマラヤスギ

クマゼミ：ケヤキ、センダン、ハリギリ、ホルトノキ

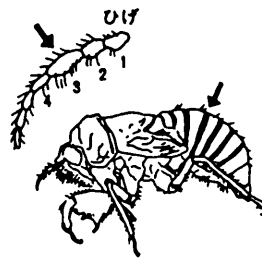
ツクツクボウシ：アカメガシワ、ミズキ、エゴノキ、カナメモチ、ヒマラヤスギ、
（これらは、成虫の好む木がまとめてあるが、幼虫の場合には多少異なることも考えられる。）

4 参 考

最後に、セミの抜殻の見分け方をまとめておく。アブラゼミによく似ているのはミンミンゼミで、アブラゼミは触角の第3節目が長いのに対して、ミンミンゼミは短いのが確実な見分け方で、抜殻の色もアブラゼミの方がやや濃い。

また、アブラゼミとクマゼミでは、クマゼミの方が身体が大きく、触角が小さいので区別できる。ニイニイゼミは丸く小さく、泥を被っているのですぐ解かるし、ツクツクボウシは、体が細く柔らかである。平野部のセミの抜殻は、慣れれば容易に区別できる。

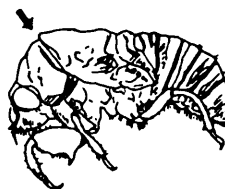
アブラゼミ



ツクツクボウシ



クマゼミ



ニイニイゼミ



セミの抜殻

（日本自然保護協会「雑木林の自然かんさつ」より）



木曾駒視察研修雑感

妹尾幸雄（名古屋支部）

去る7月22～23日南沢鉱泉泊りで、シオジ平周辺及び中央アルプス千畳敷から極楽平に於ける、温泉あり、山登りありの楽しい指導員研修会に参加しました。北岡さん、佐藤さんその他諸先生方に随分親切にご教示賜わり、大変勉強になりました。また、同行の皆様には、大層お世話様になりましたこと紙上を借りて厚くお礼申し上げます。

先日、北岡さんの作成された調査書を拝見すると、シオジ平周辺の樹木は、マツ科を始め31科84種を数え、千畳敷～極楽平の高山植物は24科72種にも達しており、それらの花の咲いているもの、花の咲いていないもの、蕾のあるもの等々詳細に亘って観察されており、私は、「コマウスユキソウ」はか数種を記憶に留めたのみであるのに、調査書によくこんなに沢山克明にまとめられたものと驚嘆いたしております。天地自然の恵みである温泉と、山野を駆け巡り自然（樹木・草花）にふれることが大好きなだけで、何の専門分野も持たない私ですが、自然をそっと、そのまゝにしておきたいと願う心だけは誰にも負けないつもりです。

人間は、天地自然の環境に適合してこの世に生を享け、今日、生存し得ているものであることは自明の理であって、今更、論をまたないと思います。あくなき人間の欲望を満たそうとする努力によって、文化、化学、技術を発展させ、今日の繁栄をもたらした。一方、大気汚染物質その他公害と称せられる自然環境の悪化をもたらす諸々の物質の放出、はたまた、乱開発、熱帯雨林の乱伐が地球温暖化を惹起している。短絡的思考ではあるが、このように思うとき、少くとも、自然環境を現状で保全し、これ以上の悪化を未然に防止する必要があると思う今日此頃です。自然を愛し、自然を守り育む同志の輪を自然観察を通じて、広げ、このすばらしい、架け替えのない緑豊かな地球を子々孫々に伝えるべく、自然観察指導員として研鑽を積みたいと思う夏の夜の雑感です。

近くの湿地の自然

山内美穂子（知多支部）

私の家から北へ30分丘を越えると、一丁田の湿地があります。此の湿地は武豊町の北西部に位置して海拔40～50mのなだらかな丘陵地であって、西側の一帯は海岸部の埋立用として採土され、裸地や耕作地になっていて、そんな環境の中に周囲をクロマツやサカキ等の樹木に囲まれた小さな湿地で、国内でも稀産となった食虫食物7種類を含む植物群が群生しております。

チャート層におゝわれた酸性湧水の低層湿原で一年草のシロバナナガバノイシモチソウ（モウセンゴケ科）これの自生地は千葉県成東町、愛知県豊明市（赤花）が知られていますが。又モウセンゴケ科のモウセンゴケ（白花）コモウセンゴケ（淡紅色）それに愛知県と三重県の特産と言われていたが今では絶滅寸前の超小型のヒメミミカキグサ（タヌキモ科）これは花軸1～3cmで2～3mmの淡紅色の花を見つけた時は足許、ひざの泥だらけになるのも忘れて感激して仕舞います。ミミカキグサ（黄花、タヌキモ科）ムラサキミミカキグサ（タヌキモ科）ホザキノミミカキグサ（淡紫色、タヌキモ科）と4種のミミカキグサがこの小さな湿地帯に咲くのも嬉しいし、日本ではミミカキグサ類は4種類のみである由なので大変貴重な湿地になります。その他シラタマホシグサ（コンペイトウグサ）（ホシクサ科）の白い群落の様は実に可憐で清楚で、良い香りの漂うのは9～10月頃、カキラン（ラン科）ウメバチソウ（ユキノシタ科）イワショウブ（ユリ科）等々自然の美事さを満喫することができます。それに国内でも珍らくなってきたハッチョウトンボの赤い姿のいじらしさ、そして西尾市の天然記念物に指定されているヒメタイコウチも時折見かけられ、湿原の外周林にはクロマツ、ヒサカキ・クロバイ・イソノキ・ノリウツギ等が生育し広さ1、2haの中で湿地を守護しているかたちになっています。超ミニ年ら自然の宝庫を感じさせられる湿地です。

並木・街路樹等の 名前ラベルについて

宮本敬之助（西三河支部）

今夏20日間ほど北方の島に環境庁のボランティアとして行って居りました。その島の港町から野営場に通ずる林道にナナカマドの並木が造成され高さは3m位になっております。

私の島での役目は、自然解説・キャンプの指導・登山相談と案内・天気予報等々から山の清掃まで。要は自然に親しむことのお手伝い役です。

キャンプ場に着くまでにこのナナカマドで自学自習してもらえないか、自然の話の導入部に使えないかと考えました。以下は町役場の課長さんに来夏までに具体化して下さいと提言した大要です。

まず、「この並木は何の木であるかを表示して知ってもらいましょう。」ただ名前だけのラベルでは全くつまらない・科名（バラ科）や学名も全くつまらない・一般の人の興味はもっと他にあるのだ。例えば、「分布しているのは極東に限られている」「九州にもあるけれど山地でないと見られない。だがここは海岸にある」「北海道で33

の自治体が市町村の木として選定し、イチイと並んでトップ」「7回カマドに入れても燃えないのでナナカマド」「アイヌは病を逐ってくれる木としてキキン・ニと呼んだ」「雪の中で焚火する時、踏みつけた雪の上にこの木を並べるとこの木は燃えずロストルの役をする」「紅葉のすばらしさ」「深紅の果実に野鳥の集まる状況」等々いくらでもある。

これを大きな看板に要約して建てても殆ど無視されるし、風致を損ねることおびたしい。並木の特性を生かして1本1本違う説明をつけていくのが効果的である。番号を入れておくと尚よい。ナナカマドの実を食べにくるキレンジャクのイラストでも入れると面白くなる。こんなラベルはコスト高で非現実的と言われるだろう。学童・生徒に創意あふれるラベルを作ってもらえばよいし、コンクールでもやれば一石二鳥の派生効果がある。

このようにいろいろ提言したのですが、来年の夏が本当に楽しみです。

………
次回のリレー投稿は、浅井聡司・野末満江・岩瀬直司の各氏にお願いします。



おたよりコーナー 知床全国シンポジウムに参加して （尾張支部 山田博一）

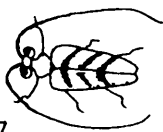
日本の森と生活を考える全国シンポジウム（8月11日～13日）の初日のエクスカージョンは、日本版ナショナルトラストの発祥の地である斜里町の知床100平方メートル運動の伐採跡の見学でした。オオイタドリ、おばけフキが生える小道をさらに入って、やぶこぎをすること2時間、トドマツ・ミズナラの林の中に伐採跡がありました。そこで初めて知ったのは1本の木を切るためには回りの木を多数切り、伐採跡に植林しても全然育たない事実でした。自然とはいかにかけがいのないもので、人間の机上の論理が通用しないかを思い知らされました。その日の夕方より3日間、いろいろな講演がありましたが、大阪市大の宮本憲一教授の講演が印象に残りました。今のリゾート法で、国有林・保安林を破壊して、ゴルフ場・リゾートマンション

………
ンとその施設を作るとは、高収入のごく一部のひとと大企業のために貴重な自然を破壊するだけで、地元の人や一般庶民には何のメリットもない危険な開発であり、それに対して地域の自然・町並を保全し、地元の経済や文化を土台に地域の福祉と人材の確立を求める内的発展しか自然を守れないということ、柳川掘割再生物語で知りました。またその物語では、自然保護をするためには、徹夜のドブさらい、大草刈り大会のように、自然とのわずらわしい付き合いが必要だということも知りました。

また、苫小牧地方演習林長の石城謙吉氏が、河川や道を自然と調和させながら作った話を聞き、定光寺の河川が護岸工事によってコンクリートで固められてしまったことが水生昆虫や岸辺の植物に悪影響が出ないか心配になりました。

斜里の夜は北海道なのに暑く寝苦しく、釧路・厚岸に行って始めて涼しく感じられた北海道の不思議な気候を付け加えておきます。

支 部 だ よ り



名 古 屋 支 部

9月15日(祝)猪高緑地自然観察会

名古屋で最大で、最後の緑地 — 市内では珍しく良好な樹林地 — と言われ約66ヘクタールの広さを持つ公園予定地です。85年より定期的に観察会が開かれており、支部主催では2回目です。今回参加者は、一般37名、指導員7名でした。秋らしく、秋の七草を始めとする草花、ドングリの名前あてと、エゴ、ゴンズイ、ムラサキシキブ、カマズミなど、実をつけた樹木の観察をしました。又今回特に、塚の杵池にボートを出して、池の上から水生植物の観察をしました。林のように植生するフサジュンサイの上からのながめにおどろきの声が聞かれました。その中に、ガガブタが花を咲かせ、又、わずかですがヒシもありました。次に、クズの花の観察、ルーペで、花卉一枚一枚数えました。そして、根を実際に堀り、これが、葛粉の原料となることを確認しました。最後に、この時期にしかみることが出来ない、ナンバンギセルのかれんな花を見つけることができました。

今後、この自然がどのようになるか、多くの人で見守ります。(布目 均)

尾 張 支 部

8月13日(日)支部観察会 北設楽郡段戸裏谷

ここの原生林は、ブナ帯下部にあたり、モミがかなり多く混じった林です。その他の高木としてツガ・ミズナラ・ミズメ(葉をもむとサリチル酸メチルの臭いがする。)などが点々と見られました。

また、ヒミズの死体にはヨツボシモンシデムシが3匹群がっているのが見られました。

沢に沿ってはえている、ブナ林に特有の植物のテバコモミジガサを見ながら歩いていたら、クサコアカソの葉をJ形に切ったオトシブミの揺籃を発見しました。1つ保管しておいたらヒメクブオトシブミが羽化しました。

帰りの道路上で、なぜか、オオクロカミキリの死体を2匹も発見しました。

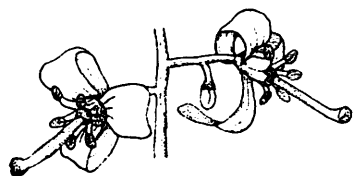
ここで唯一本のハリモミの葉の感触を確かめてから帰路につきました

9月10日(日)支部観察会 犬山市本宮山

参加者数は27名で久々ににぎやかな観察会となりました。テーマは「シモバシラ」でしたが、どのあたりにあるのかもわからないまま出発しました。

最初の沢では、オオイワカガミの光沢のある葉が目につきました。これの分布の中心は寒冷地だそうです。花では、ガンクビソウ・ホツツジ・ヒヨドリバナなどがありました。

尾根に出ると、
植生は一変してアカマツ林となりました。数十年前までは、ここ一帯はハゲ山で植林によってやっと今日の姿になったのだそうです。



特徴：ツツジ類の異端者で花は3数性(花弁3枚・おしべ6本)

日本と北アメリカに離れて分布

ホツツジ(ツツジ科)

子供が、口吻の長いハイイロチョッキリを捕えました。コナラの実に産卵すると聞いてなるほどと思いました。

ハキリバチが円く切り取ったヤマノイモの葉に喜びながら本宮山に登ると、姿も飛び方もハチ擬態のブドウスカシバがいました。(長尾 智)

知 多 支 部

4月23日(日)県委託観察会 美浜町野間大坊

2度の事前研修や数回の下見、それらの熱意も天に届かず朝から本格的雨降り。一般参加36名・指導員13名等を前に「雨も自然の一部、雨の日の生物の観察や雨はどこへ行くのかなど考えてみよう」と加藤支部長挨拶。とはいえ雨具不如意の子供達にとって、運動靴に泥だらけの大坊めぐりは酷であった。そのためか、観察会終了後の石合せ(石塊ジグソーパズル)に大喜び。

6月4日(日) 全県一斉観察会 半田市任坊山

今年全県一斉観察は参加者わずか11名。指導員10であまり船頭が多くても2班に分け、定評のある相羽・降幡両氏が任坊山の自然を紹介する。「水について考える」とテーマづけしたもの、主役は遥か遠くの棚の中、その中でカワウが1羽日向ぼっこをしていた。印象に残ったのはクスノキの葉影で羽を拡げていたシンジュサンの美しい姿でした。(菊池 今朝和)

東 三 河 支 部

7月2日(日)・9日(日)・23(日)講師派遣観察会 愛知大学・時習館高校付近

豊橋市教委主催で参加者延 120 名・指導員 3 名

7月16日(日)第3回支部主催観察会 一宮町江島橋下流(一宮町協力)

テーマは夏の水辺の自然を探る。参加者23名で指導員14名。NHKテレビ取材あり。

7月26日(水)講師派遣観察会 くらがり溪谷 豊川信用金庫主催で参加者 110 名・指導員 8 名、くらがり溪谷の自然のカセットテープを作成。

7月29日(土)～30日(日)第4回支部研修会「海ガメの産卵調査」渥美町伊良湖海岸

昨年、御前崎海岸で海ガメ産卵調査研修に参加、当管内でも産卵しているとの情報で行った。参加者会員6名と一般4名。当日は急変する悪天候の中、22時15分発見～23時35分産卵終了。24時20分降海。カメの大きさは背甲長80cm・背甲幅76cm。下見を含め4頭の産卵を確認でき、初めての調査としては大成功だった。

7月30日(日)講師派遣観察会 宇連ダム 豊橋市教委主催。参加者50名で指導員3名。

8月19日(土)～20日(日)第7回会員研修旅行 稲武町夏焼温泉で行い、会員17名と一般11名の計28名の大部隊となり温泉貸切りの状況でした。当日は白鳥山から面ノ木峠に入りブナ原生林の観察宿に入り旅装を解く間もなく神社の森にてムササビの観察、星空の観察等を寝食を忘れての猛勉強でした。不運にもムササビを見ることの出来なかった人のボヤキの大きいこと……。翌日は三国山に登り、亀甲岩の観察後3県の頂上に立ち自然を満喫しようとの夢も、心ないオートバイの若者達に占領されて夢も打ちくだかれ怒り燃えて下山。無事終了を喜び合い、来年の再会を約して散会。

9月10日(日)講師派遣観察会 嵩山蛇穴 豊橋市教委主催。参加者50名で指導員3名。

9月11日(日) アミメカゲロウ羽化状況調査 豊川(下条橋・当古橋・加茂橋・江島橋) 会員参加4名(突然であったので連絡不足)。水面からの発生状況を見たり、街路燈の光によって集まってくるアミメカゲロウの数の違いを知ることができた。(武田孝夫)

奥 三 河 支 部

7月30日(日)阿寺の七滝自然観察会

国指定の名勝、天然記念物「阿寺の七滝」自然観察会は、地元、鳳来町の「七滝まつり」とも、丁度重さなり、祭り行事も盛大に行なわれるなか、現地で飛入り参加をした人達も含めて、約100人位が指導員のもとに集まりました。参加者は愛知県下はもちろんのこと、岐阜、三重、静岡県と広い範囲より、家族連れで訪れた人達が多かった、なかには大阪府、山口県からの学生の参加もありました。

今回の観察会は県と共催で行なったものです。

最近の観察会で気付くことですが、女性の参加が多く、中には特に植物についての研究熱心な方がいることが目立ち、指導員の説明に対し、より専門的な質問がとりかわされます。

阿寺の七滝は、七段の滝が約67mの落差で流れ落ちるもので、真夏の杉木立を渡る風も滝しぶきを含んで一層の涼感を肌で味った次第です。

この七滝のもう一つの特色は、七滝附近の限られた範囲だけで、礫岩を含んだ水成岩層が露出していることである。これを地元の人達は「阿寺の七滝(子抱石)」といって、これに祀ると子供が授かるという伝説があり、観音様へお祈りに訪れる人も有るようです。

観察会に備えて下見を7月16日に実施し、観察ポイントと予定コースの設定を行なった。

観察会当日は曇りで真夏の観察会としては、すこし良い一日でした。

植物の観察に興味を持つ人、鉱物に関心の有る人の2つに分け、滝までの800mを午前10時30分から正午までの1時間30分、それぞれの思いをこめて、自然を十二分に満喫しながらの自然観察会でした。

10月15日(日) 百間滝観察会

支部主催で実施いたします。この滝は鳳来町七郷一色地内に有り、最近滝の近くまで行くことが出来るようになった新顔の滝で、中央構造線上の断層を流れ落ちるもので、落差120m、水量も多く見事なものです。地元の人達も有ることは知っていたが、見た人は数多くないという滝です。

(杉山茂生)

協議会行事報告

樹木研修 Part I 温帯性樹木の観察

お盆明けの8月19日(土)から20日(日)にかけてカエデ類を中心とした樹木研修Part I が稲武町面ノ木峠と豊根村茶臼山周辺にて参加者17名で行なわれた。

参加者は(名古屋支部)浅井聡司・鈴木久(尾張支部)大谷敏和・北岡明彦・北岡由美子・鈴木温子・鷺見守康・長尾智・平井直人・松尾初・三輪治代美・山田果与乃・山田博一・吉田義人(知多支部)相羽福松(西三河支部)浅野真理(会員外)鳥山淳・丸の内陽子の各氏で東三河支部は支部行事と重なったため参加0名が残念だった。

初日は面ノ木峠で行い、まず牧場に登って遠くからブナの原生林と二次林の違いを確認した。構成する木の大きさ、山全体の色の違い等が印象的だった。テキストにて対生・互生等の基礎からの分類も学んだ。園地から天狗棚まではカエデといえどもカエル手になっていないチドリノキやメグスリノキに「エッ、これでもカエデなの?」という声があがったり、「カエデ科はすべて対生です。」という鉄則を覚えたりして歩く。天狗棚で昼食の後、尾根沿いに歩く、ここではウリカエデとウリハダカエデは似ているが前者は暖帯系で後者は温帯系なので、面ノ木ではウリハダカエデが多い等分布地理的なことも学んだ。

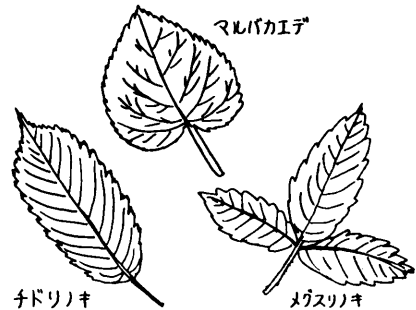
二次林から原生林に入ると大木が増え、太古のイメージにつつまれる。やっぱり大木はいい!この尾根は右手がヒノキの人工林で、左手が原生林になっているので、いやおうもなくその違いがわかり、いかに人工林が単純で変化に乏しく楽しくない森かわかってしまう。原生林の中で直径1m程のブナにもたれたり、ミズメの大木を見て驚いたりした。その上林床に生えるツチアケビの花を初めて見て感激!やっぱり原生林はいい。愛知県にわずかに残された面ノ木峠のブナ林といつまでも!!と願わずにはいられなかった。

夜は民宿で2時間の講義、遠路はるばる岐阜県から参加の鷺見さんは夜9時までの参加(拍手)ホソバシクナゲやシデコブシは東海要素と呼ばれる植物群で世界中で東海地方にしかない非常に

珍しい植物だということに全員びっくり。度上、「ブナ科樹木分布調査が進んでいない!もっと皆の参加を……」との声も出た。

20日は茶臼山にて愛知県で一番寒い所の植物群落のウラジロモミ林を観察した。80cmを越えるウラジロモミの大木が数本あり感激した。また林床のササの種類が、面ノ木峠ではスズタケだったのに茶臼山ではさらに北方系のチマキザサに変わったことで自然の驚異を実感。

この2日間日本のブナ林の紅葉を代表するカエデ科のいろいろな種類が頭の中で交錯し、爆発しそうだったが楽しい研修だった。(北岡由美子)



これでもカエデ! 3種

理事会 8月26日

名古屋市教育館にて、会長始め9名の出席により開催しました。主な議題は来年度事業の進め方で、特に協議会設立10周年を迎えるため、どのような記念事業を行うか検討されました。

10周年記念事業としては、①外部向けにポスターの作成を検討する、②内部向けに懇親を中心とした指導員大会を行う、③機関誌で10周年記念特集を組む、④全県一斉観察会を10周年記念として行うことなどがまとめられました。

また、来年度事業としては、①全県一斉観察会を環境週間に行う、②指導員研修会は大会に振替えるため中止する、③講座研修会に県教育委員会の後援を得て一般の参加を認めることとし、その他はおおむね今年と同じように進めることがまとめられました。

これらの内容については、運営委員会ですらに検討し、11月の理事会で決定されます。

この他、今後検討すべき事項として、①会の事

業のあり方（比重）を見直す必要がある、②観察会で他支部への応援体制を考える、③支部の区域割を検討する必要がある、④他の機関と連携をとって行事を実施する、⑤有益な行事を会員へ連絡することなどが出されました。

自然観察指導員講習会（第138回）

愛知県としては7回目、県民の森では3回目の指導員講習会が、9月15日（金）～17日（日）にかけて鳳来町愛知県民の森で行なわれました。

講師は自然保護協会から柴田敏隆・島山由子・開発法子の各氏、協議会から大竹勝会長・中西正副会長始め8名が努め、県内56名、県外9名の受講者が集まりました。

☾ 天気予報では雨続きでしたが、皆の心掛けが良かったせいか快晴続きで、暑さがこたえる程の好天となりました。

2泊3日の短期間に自然観察のノウハウを全て盛り込むのですから、例年通り早朝から夜までギッシリスケジュール。でも皆さん好きで集まったのですから、嫌な顔ひとつせず頑張り全員無事終了しました。

今回の講習会では各方面で既に専門的に活躍してみえる方が比較的多く、講師陣としてはやはりにくい面もありました。それでも、自然観察的な見方や生態系的なとらえ方についてはある程度新鮮に学んでいただけたのではと思います。

私は24日夜の講義を担当しましたが、まず聴衆を居眠りさせないことを第一とし、自然を生態系全体としてとらえる見方の紹介を第二としました。☾ 資料をベラベラめくったり、質問をしたり、笑ったりで、皆さんきっと眠れなかったと思いますが、どうでしたか？しかし、延長につぐ延長で皆さんに迷惑をおかしたことを反省しています。時間内にテーマを消化するのも指導員の技術ですね。

もう少し時間にゆとりがあって、地域の素晴らしい自然（ホソバシャクナゲやエンショウハグマ等）を楽んだり、受講者と講師陣の間の懇親や会話の場があるとなお良いと思うのですが、スケジュール的にはどうしても無理でした。（北岡明彦）

今回の講習会受講者で協議会に加入された方々は次の49名です。

秋山葉子、浅井五六、天野保幸、井手上明弘、

井上育正、今泉洋良、岩月 学、魚住泰弘、浦野 登、小木曾浩、小栗和夫、小野田尚夫、影山博史、加藤 保、加藤英也、加藤道宣、河合和代、河合哲夫、鬼頭 弘、木村修司、小柳清男、近藤盛英、榊原 靖、佐藤哲弘、清水美千子、下平芳久、鈴木栄子、鈴木克己、相地 満、高橋伸行、竹村武雄、鳥山けい子、中井三従美、中川 等、中根鉄信、長谷川洋二、平松典弘、深川芳孝、藤田興治、堀田 守、前原範彰、間瀬穂積、村上哲生、村田由紀子、森島静子、森雅司、山田 弘、山本 厚、渡辺千代子

今後の支部活動や協議会調査事業に是非御参加下さい。

運営委員会 9月30日

名古屋市教育館にて、6名の出席により開催しました。

主な議題と概要は次のとおりです。

- (1) 指導員再登録：再登録を行っていない人は約65名あり、協議会から意向を聞いて登録事務を進める。
- (2) 指導員研修会：11月に知多で行う指導員研修会の内容を検討する。
- (3) 平成2年度事業：10周年行事のポスターは予算的に可能か、代案としてのパンフレットも含めてさらに検討する。講座研修には専門家を呼びたい。水生昆虫分布は今年度限りとする。などの意見をもとに、次回の運営委員会でまとめることとなる。

WANTED セイタカシギ

1989年7月、愛知県渥美郡田原町の休耕田でセイタカシギが繁殖し2羽の幼鳥が巣立ちました。内、1羽は左足が不自由でしたが、この「足の不自由なセイタカシギ」の今後の移動先について知りたいと思っています。

見かけられた方は下記まで御連絡下さるようお願いいたします。

〒441-35 渥美郡赤羽根町高松字一色4
大羽康利（東三河支部）

行 事 案 内

11. 5 (日) 定光寺自然観察会 (尾張支部) J R 定光寺駅東 9 : 30 県委託観察会
11. 7 (火) 知多支部室内例会 半田空の科学館 18 : 00 (月と星)
11. 11 ~ 12 (土日) 知多支部観察会 東海市農業センター 14 : 30 (奥三河へ)
11. 12 (日) 尾張支部月例観察会 (犬山) 八曾自然休養林モミの木駐車場 9 : 00 (紅葉の観察)
11. 15 (水) 名古屋支部室内例会 名古屋市教育館 18 : 30 (台湾の高山植物)
11. 23 (祭) 岩屋山自然観察会 (東三河支部) 豊橋視聴覚センター 8 : 50
11. 25 ~ 26 (土日) 指導員研修会 (協議会) 美浜町簡易保険保養センター 25日15時~
12. 10 (日) 尾張支部月例観察会 (春日井) 内津神社前駐車場 9 : 00 (越冬昆虫)
12. 10 (日) 知多支部観察会 (冬の水鳥) 半田市上池 9 : 00 (上池→草野池)
12. 20 (水) 名古屋支部室内例会 名古屋市教育館 18 : 30
1. 14 (日) 尾張支部月例観察会 (犬山) 寂光院の駐車場 9 : 00 (シダの観察)

※他支部の行事にも参加できます。

会 員 異 動

○次の方が脱退されました。

浅沼秀夫 (尾張旭市)、名倉 実 (豊川市)

お 知 ら せ

◎ 指導員研修について

今年で3回目の指導員研修会を、知多郡美浜町にある簡易保養センターにて、11月25日(土)~26日(日)に行います。会員相互の親睦とディスカッションを主として行います。定員は25名で会費は6,000円(見込み)です。集合は午後3時簡易保養センターです。申込みは佐藤さんまで。

◎ ブナ科樹木分布調査への参加について

現在協議会ではブナ科樹木の分布を調査中ですが、参加者が少なく非常に難行しています……

この調査は愛知県に産するブナ科20種の県内分布を調べ、現状を把握するものです。天然林の人工林化・森林の開発等にさらされている彼らの分布を今のうちに調べておくことは、大変重要なことですが、今まで実施されていませんでした。

私達の調査は、愛知県を1km四方の約5,000のメッシュに区切り、そのメッシュ毎のブナ科樹木を確認して県内分布図を作る方法をとっています。しかし、現在まだ900メッシュしか調査できていません。平成2年度までの調査期間に最低1,500メッシュ実施したいと思っていますが、参加者の少ないのが悩みの種です。

会員の皆さんのひとりでも多くの参加をお願いします！

【編集後記】

協議会ニュースの編集を始めて1年半たちましたが、少々疲れてきました。最近発刊が遅れ気味なので大変御迷惑をかけていますが、気ばかりあせって一向に進みません。

内容がやや硬すぎるのも気になりますので、新しい編集子を迎え内容を一新したいと思いますが、自選・他選かまわず、誰か適任者はいませんか…… ボヤキです。(北岡)

編集事務局： 瀬戸市柳ヶ坪町98-5

北岡明彦 (0561) 84 - 2953